

「知情IT勉強会」2019年度の活動報告と2020年度の活動予定 -リアルなITについて気軽に学びませんか-

知能情報工学科H27年卒 畑野亜麻衣
越智 郁

【はじめに】

こんにちは！平成29年に医学系研究科・理工学研究科（現在の創成科学研究科）を修了した畑野と越智です。今回は、私たちが企画・運営をしている「知情IT勉強会」の2019年度の活動報告と2020年度の活動予定をお伝えします。

【知情IT勉強会とは？】

名前のとおり、ITに関するトピックについて勉強会を行っています。2017年より活動を開始し、2019年は第4回目の勉強会を実施しました。初回は知能情報工学科の学生をメインターゲットとして活動していましたが、現在は全学部全学科を対象としています。

突然ですが、在学生のみなさんにお尋ねします。次の内容について共感することはありますか？「専門科目の講義が、実際社会でどう活用されているのか想像しづらい」、「講義を受けるだけの毎日に焦りがある」、「入学前に持っていた大学生活のイメージと違って閉そく感をもっている」。学生時代、私たちが感じていたこのような思いを、ポジティブなエネルギーに変えたきっかけの一つが「外部の勉強会」に参加したことでした。（詳細は「常盤」82号の“私は今”をご覧ください。）学外の学生や社会人と交流を持ったことで視野が広がり、それまでと違ったものの見方や捉え方ができるようになり、毎日の大学生活によりモチベーションをもたらしてくれました。卒業生となり、お世話になった大学に何らかの形で貢献できないかと考え、自分たちの経

験から勉強会を企画してみようと思うようになりました。そのとき生まれた次の3つのコンセプトを大切に活動しています。

①だれでも気軽に “外部の勉強会はハードルが高い” と思っている学生さんに最初の一步の経験にしてもらいたい、また、遠くまで行かなくても学べる場にしたい、という思いから山口大学で開催しています。

②初学者向け “全くついていけずに迷惑をかけたらどうしよう…” と不安を感じていた私たち自身の経験から、「初めてそのテーマに触れる人でも楽しめるように」ということを最も意識しています。講師の方にもお願いし、簡単に楽しく学べる工夫を毎回行っています。

③リアルに 大学で行われる各種講演は著名な方によるものが多く、学生時代の自分を思い返すと、等身大の未来像が想像しづらいと思うことがありました。そこで、等身大の将来像を描くお手伝いになればと「知能情報工学科の卒業生」に講師の依頼をしています。



【2019年度活動報告】

第4回知情IT勉強会では、進路について考えるセミナーと、「Be lazy」というプログラ



ミング哲学を踏まえて、プログラミングを行うワークショップを実施しました。講師のアイデアによりグループでプログラミングを行う手法をとってみました（写真）。苦手意識があると語っていた学生さんも楽しそうに取り組まれていたことが印象に残っています。また、LT（ライトニングトークと呼ばれる5分程度の短い発表）のセッションでは、参加学生からの発表がありました。

参加者の割合としては初参加の方が多いのですが、過去に参加したことのある学生さんが引き続き参加されることもあります。勉強会では交流の時間を設けていることもあり、参加者同士で仲良くなり、プログラミングの勉強会を行うきっかけになったという嬉しい報告もいただきました。そのほかの活動としては、勉強会の運営のほか、「もくもく会」と称し、各自が興味のあるテーマを持ち寄って自習する会などを試験的に実施しました。

【2020年度活動予定】

現時点では、秋ごろに開催したいと思っています。また、勉強会の名称を「ITカフェ」のようなものに改め、全学部全学科の学生さんがより参加しやすい会にしたいと考えています。団体名は「知情IT勉強会」から「ちじょうIT勉強会」に改めることにしました。各種媒体での情報発信も行っていますので、ぜひ

ご覧ください。

Webページ：<http://csse-itstudy.main.jp/>

SNS：https://twitter.com/CSSE_IT_Study

【さいごに】

本報告文を執筆している今、新型コロナウイルスの感染拡大をうけて、世界の各地で緊急事態宣言が出され、外出自粛の生活となりました。2019年末に「これまで以上にオフラインで行うメリットや、この勉強会でないといけないことに焦点を当てた勉強会にしたい」と目標を定めたのですが、四半期も経たないうちに、世の中が一変してしまいました。最終的な実施の可否や実施時期については、大学をはじめ、国や山口県などの方針に従い、参加者や運営など関係者の安全を第一に決定したいと思います。その結果、従来の対面での実施が難しい場合でも、オンライン勉強会など何らかの形で引き続き学生さんに貢献できればと思います。そしてなによりも、感染拡大が収束して安全な状況となり、オフラインでないと経験できないような価値のある勉強会が実施できればと願っています。

最後に、常盤工業会はじめ私たちの活動にご理解いただき、協力してくださっているすべての方にこの場をお借りして感謝申し上げます。